

## 長崎市内の古い城あと

西山台小学校6年 永川 暖久

### はじめに

六年生になって、総合学習の時に「西山街道」を調べるうちに長崎にも城があることを知り驚きました。調べてみると、長崎市内には他にも城がありました。それで、夏休みに母に手伝ってもらって、市内各所の資料(本)に書いてある場所を周ってみました。わからない事については、長崎歴史文化協会、長崎歴史文化博物館の方々に教えてもらいました。そして、まとめたものを今年(平成24年)第11回「城の自由研究コンテスト」埼玉県に応募しました。賞は取れませんでした。とてもいい経験になりました。

### A 福田地区

1. 福田城 福田漁港の上の山にあり、山頂付近に福田城の説明板があった。近くには、丸石で築かれた石塁の跡らしき物があった。その下に天満宮があり、そこで聞いた城の名前が分からないので「古城」と言っているようだ。『日本城郭大系第17巻』をみたら、「出丸」と書いてあった。室町時代に建てられた福田氏の居城跡だと言われている。

2. 舞岳城 手隈・式見両村を見おろす事のできる要害地にある。福田氏、櫛<sup>しきみ</sup>氏との領地争いの時に造られたと『福田郷村記』に書いてあった。(天正十四年―一五八六築)中腹に丸石の石塁があり、井戸もあった。



「城のこし」山頂付近の石垣のような物(調査中の永川君)

3. 三根城 櫛氏の居城で、東西三〇間、南北四八間、東側は谷で、川が流れている。西は高い岸、西北に堀切があった。永禄年間(一五五八―一五八〇)に建てられた。

4. 宮尾城 手熊の標高74mの丘の上にあり、福田大和守の築城で天正末年頃(一五九一)と言われている。近くに

白髭神社がある。本丸は東西三四間、南北三〇間の広さで、北に用水がある。城下には海と川がある。

B 城山地区(旧淵村)

5. 志賀城(別名城山城・八幡城)キリシタン大名大友氏の重臣志賀氏の居城で、現在護国神社が建てられている。神社の方に聞いてみたところ、「ここに城があったとは聞いていますが、原爆災害の地で何も残っていない。」との事だった。

C 浦上地区

6. 鳥山城(別名 土面城)浦上中野氏の城で標高193mの山に築かれている。周囲は断崖で、登ろうとしたが階段に鍵がかかって登れなかった。

7. 狭田城 白巖山の上であり、近くに穴弘法寺がある。金比羅山に道は続いていた。周囲は切り立った崖で、大きな岩がたくさん落ちていた。途中に石塁の跡もあった。山頂は10m×6×7m位の平地で文明堂の石碑が建っていた。

D 片淵(桜馬場)地区

8. 城のこし―桜馬場城(別名 鶴城)桜馬場中学校の上、標高101mの山に建てられた。山頂付近には石垣のようなものがあった。城の下は城下町(夫婦川町)があったそう、そこには春徳寺があった。

9. 焼山城 城のこし山のつぎ標高190mに建てられた長崎氏の城。城のこし側を大手、後ろの谷側を搦手、後方に用水の出る大久保があった。城の大きさは広い所で幅43m、長さ150mだった。城跡地は打ち込みハギの石垣が築かれていた。

E 深堀地区

10. 俵石城 城山に建てられた深堀氏の居城。俵石の石層がある。この城は館としても使用されていた室町時代初期に造られた古い城だそう、山頂には石塁が多く残っていた。道が分からず、登れなかった。

11. 水木城 深堀氏の城で、大久保山の上に建てられた。資料もあまり残っておらず、登る道もないため、山の様子も分からなかった。

### 風信

○長崎の八月と言えば九日の原爆忌にはじまる。私が西部軍より長崎に帰りついた九月三日には長崎の駅舎も駅前の家も全て焼失していた。

○次いで十五日は「盆の精霊流し」と終戦の日であり、全てが何か物がなしい日であった。特に私は今でも十五日夜の「精霊船のもどり盆」の音を聞くと何故か感を深くする。

○十六日は「光源寺のユウレン」開帳の日である。先月の「ながさきの空」記載の古屋陸夫氏寄稿の「あめやの幽霊考」を読まれるとよい。

○七月の水曜懇話会で、「長崎俵物集荷」に対する調査報告があった。それは、今回・大災害にあわれた仙台・南部両藩の東北三区(石巻・気仙沼・吉浜)が長崎貿易俵物の生産地で、その俵物は「むつ大平湊」に集荷され、北前船に乗せ、長崎まで送っていたそうである。そして其の俵物集荷元締は大坂回船御用大問屋で大平湊在住の山本理左衛門であり、元文三年(一七三八)と記してあったそうである。

○俵物とは鮑・海鼠・鱧・干しもので、長崎の唐船貿易品としては重要なものであり、現在の銅座町十八銀行本店の処に長崎奉行支配の俵物荷倉があり、其の記念碑は今も建っている。

○今回のこの俵物研究調査は、本会理事・竹之下憲二郎氏が偶然にも、大震災六ヶ月前に東北三区に出かけておられたそう、それが今回の報告の主題となっている。この時の懇話会の一つに三陸海岸の食堂で食べた「鱧ヒレ入りラーメン」は特に美味であったそうである。

○私達は之の懇話会での報告を聞き、長崎俵物を通じて東北地方との深い関係を知り、何かしみじみと胸に聞えてくるものがあった。

○今年も十一月二十三日を中心に名古屋の椋山女学園高校の生徒さん達四〇〇名が長崎平和都市文化研修旅行に来て下さるとの連絡あり。その打ち合わせに加藤・市川両先生が事務所に来て下さった。その長崎研修来訪は今年で三十五回ですよと言われた。

○今月、ご寄贈いただいた書籍

一、長崎文献社より「新長崎―はじめ」と「長大写真集」を戴く。『長崎―はじめ』は長大名誉教授後藤忠之輔先生著で、長崎より始まった各分野の事について良くまとめられており、郷土の事を知る、大なる参考書であった。(長崎文献社刊・一、四〇〇円)

一、「写真集」は「長崎大学コレクション写真集外編①」で「マンスフェルトが見た長崎・熊本」の長大図書館長姫野先生序文、同大相川名誉教授解説。知らなかった事を多く教えて戴いた。(長崎文献社刊・一、八〇〇円)

一、富山市の井村宏隆氏より金沢市在住のキリシタン文化史研究家の木越邦子女士著述の「キリシタンの記憶」を拝受。多くの長崎関係の資料も記してあり感謝申し上げます。(柱書房刊・二、〇〇〇円)

### 終わりに

ぼくは、長崎市内の城について調べたが、あまり遺構は残っていない。けれど地名に「城」という文字や、「城」という名前を使っている所が多くあった。遺構は残っていないけれども、城がそこにあったという事が今も伝わっているのは、土地の人々が守ってきたからだと思います。

この夏休みに長崎中の古い城跡を周って山に行ったり、高い所に行ったりすると、「ここで昔の人は海を見はっていたのだろうか」「この山の下に、城下町を作ったのだろうか」「この山の周囲にある谷や川を城を守る要害として、活用したのだろうか」と考えるようになった。

ただ、長崎市内には、お隣の大村市や島原市、福江市、平戸市にあるようなりっぱな石垣をもった「お城」がなかったのは、残念だった。先日、先生方にお聞きしたら、長崎のお城は大きな石垣ができる前の足利時代頃の城跡だから、よそのような立派な城跡は、ないのだそうだ。

(平成24年 夏)



焼山城跡地の打ち込みハギの石垣

永川君が母様と一緒に今年(平成25年)3月の終わり頃、この研究発表を持参されました。私(越中)は、此の報告書を見て感心させられました。そこで私は早速「ながさきの空」に掲載しようと思いましたが、永川君の研究の全文を掲載することは紙面の都合上できませんので、本稿では其の概要をまとめ掲載させて頂くことにしました。(事務局より)

長崎歴史文化協会 研究室

TEL 八二二一―一五四〇

十八銀行公会堂前出張所2F

